みんなの広場

スピーカーズコーナー

FIGHT

編集委員が地域の皆さんにインタビュー！

今回は式根島に来島し19年目となる奥山敏仁（としひと）さんを取材しました。

前田（泉）：来島の経緯・経過は？

奥山：都内の水道・電気工事業会社勤務時代に奥山家の長女である妻と知り合ったことで、結婚を機に来島しました。

奥山家の家業である、おくやま商店（食品・酒類・土産物小売業）に勤務しました。近年では、義父が湯治客向けに開業した簡易宿泊業も事業に追加されています。事業としては４代目、法人としては3代目で、令和２年で創業１００年となりました。

前田（泉）：自主生産したあめりか芋を原料とした焼酎（醸造は外注）をブランド化し、最近では他野菜生産も手がけていますね？

奥山：あめりか芋は、農業高校出身でもあったため、島のお年寄りに教わりながら来島当初から趣味で始めましたが、せっかくの産物の活用を考えブランド化しました。今はタマネギ、トウガラシも始めていますが、趣味程度のものです。

奥山　敏仁（おくやま・としひと）さんプロフィール
東京都出身　1974年１月８日生まれ
（有）おくやま代表取締役
本業のかたわら式根島交通安全協会会長・同観光協会理事を務める。義父母・妻・２女（うち長女は都内進学中）１男の７人家族。

前田（泉）：島の若者に期待すること・島の将来像は？

奥山：島に帰ってきてもらいたい。島の良さを子どもたちに教え、再認識してもらいたい。専業で生計を立てることは難しいが、仕事はあります。二足、三足のわらじを履いて生業とする考え方もあります。ネット活用の事業、農業・漁業の再興等、探したり、新たに生み出したりすることが必要。若者、子どもが増えないと活性化は図れません。我々商店も宿泊業、農業等、考えながら凌ぎ、活性化を考えています。

前田（泉）：行政や議会に求めることは？

奥山：何でもかんでも行政や議会に頼ると言うのではなく、補助金にしても、困ったときに相談に乗り支援してくれれば良いと思います。また、財政面の支援をするだけでなく、行政がパイロット役になり、民間と協調して事を進められれば良いと思います。必用なときに人材を派遣して、相談に乗ったり、アドバイスをくれたりしてほしいですね。

編集後記

今年度は、新型コロナウイルスに翻弄され、村の行事をはじめ、学校行事等も、中止・延期・縮小を余儀なくされ、村の活気も失われつつある様に思われた一年でした。

議会でも、新型コロナウイルスに関する一般質問が多くされていました。我々は、今自分に出来ることに努め、早く元の生活にもどれるように願うばかりです。

（青沼 弘）

広報編集委員会メンバー
委　員 長：小久保 利佳
副委員長：木村 諭史
委　　員：前田 泉
：前田 寿夫
：青沼 弘